

2021年度 戦略施策マネジメントシート【2020年度実績評価】 作成: 2021年6月21日

施策番号 3-1	施 策 名 安心子育てプロジェクト		基本的方向	誰もがいきいきと安心して暮らせる地域をつくる		
			基本目標	安心して子育てできるまちづくり		
	主 管 課 子育て支援課		課長名 杉山 ゆかり	内 線 168		
	施 策 関 係 課 施 策 関 係 課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図			結果	
妊娠・出産、子育てに関する悩み・不安の解消を図り、安心して子育てできる環境づくりを進める。また、経済的理由などにより、子どもを産み育てることを断念することのないよう支援の充実に努める		子ども		出生率向上のため、阻害要因を取り除く取り組みを進める			若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
重要業績評価指標(KPI)	説明	単位	策定時(基準値)	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2024年度(目標)	
① 安心して子育てができる環境であると思う町民の割合	住民意識調査	%	96.5	89.0			90.0	
② 不妊治療費助成件数	実績数	件	15	14			15	
③ 保育所待機児童数	実績数	人	0	0			0	
評価指標 設定の考え方	①は、町民を対象とした住民意識調査の結果を成果指標として設定 (※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更) ②は、妊娠・出産を望む者に、不妊治療費を助成した件数を成果指標に設定 ③は、保育所待機児童ゼロを継続するため、成果指標に設定							

2. 施策の事業費

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費（千円）	758,697		
人工数(業務量)	3,5069		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2020年度の成果評価 (策定時比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①策定時より△7.5ポイント、成果指標②策定時より△1件 成果指標③保育所待機児童ゼロの継続 →成果指標①②は策定時より減少したが目標値に近い高水準であることと、子育て世代包括支援センターの認知度・相談機能向上等から、全体的に向上していると言える。
②2024年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠 (理由)	妊娠・出産から子育てまで、きめ細やかな相談体制の充実を図っている。 子育て世帯の経済負担の軽減策を継続する必要がある。 現状の保育施設の事業運営を持続することで、待機児童ゼロは維持できる。
(2) 施策の成果評価に対する第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	妊娠相談・支援事業 子育て世代包括支援センター運営事業 保育事業 子どもセンター運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・少子化が進行する中で、妊娠期から子育て期まで、保護者に寄り添ったきめ細かい相談体制の強化と、必要な支援を受けることができる支援体制の充実を図った。 ・保護者が安心して育児と就労の両立を支援できるように、保育施設及び子どもセンター等、保育環境の充実を図り、待機児童ゼロを継続した。 ・国や道の助成制度(幼児教育無償化、医療費助成等)に町独自支援策をプラスし、子育て世帯の経済負担の軽減を図った。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

A:実現した

B:(総合戦略策定時と比較して)大きく前進した

C:(総合戦略策定時と比較して)前進した

D:(総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した

E:(総合戦略策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化や核家族化の進行により、養育に悩みを抱える保護者への支援。 ・保護者の育児と就労の両立のため、保育施設や子どもセンター等を利用する児童の増加。 <p>《今後の予測》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期からの相談体制の充実と子育て世帯の経済負担軽減の検証。 ・保育を必要とする保護者の多様なニーズへの対応。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで、子育て世帯の経済負担軽減や、町内での病児保育実施を求める要望がある。

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

●子育て支援相談体制の強化

妊娠期から子育て期まで、子育ての悩みや不安を解消する相談体制を強化し、産前産後相談室や子育て支援センターの充実を図る。

●保育事業の充実

保護者の育児と就労の支援ができるよう、保護者ニーズを確認・検証し、安定した保育の提供を行う。

6. 経営戦略会議(府内評価)

評価	成果指標からの判断は難しいが、子育て施策については毎年度取り組みを強化しており、前進したと評価する。	A	B	C	D	E
進捗結果			○			
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した	B:(総合戦略策定時と比較して)大きく前進した	C:(総合戦略策定時と比較して)前進した	D:(総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した	E:(総合戦略策定時と比較して)後退した

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	府内評価同様、前進したと評価する。	A	B	C	D	E
進捗結果			○			
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した	B:(総合戦略策定時と比較して)大きく前進した	C:(総合戦略策定時と比較して)前進した	D:(総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した	E:(総合戦略策定時と比較して)後退した